

1. 件 名：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構との審査等の進め方に関する面談

2. 日 時：令和3年7月20日（火）9：00～9：50

3. 場 所：原子力規制庁10階南会議室（テレビ会議）

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 研究炉等審査部門

志間安全規制管理官（研究炉等審査担当）、来住補佐、木村補佐、小多係長

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

安全・核セキュリティ統括部 奥田部長 他2名

大洗研究所 前田副所長 他2名

5. 要 旨

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下「機構」という。）から、常陽の運転再開ニーズ及び常陽でのRI製造の可能性について、以下のとおり説明があった。

- ・2021年6月18日に閣議決定されたカーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略は、2024年にステップ2に入ることとなっており、その中で、常陽を活用した医療用RIの製造によるがん治療等への貢献が期待されると示されている。これに基づき、令和3年度中には現在対応中の新規制基準適合性審査に必要な説明を全て終わらせ、来年度の早々に許可を取得したいと考えている。

これに対し、規制庁からは主に以下の点を指摘した。

- ・新規制基準適合性審査は、申請のあった内容に基づいて審査するものであり、現時点で説明を受けていない内容が多く含まれている。7月26日の審査会合で、常陽の審査方針について審査チームから説明するので、これを踏まえて、いつ、何を説明して、来年3月までに説明を完了しようとしているのか、機構側の見通しを示して欲しい。

これらに対し、機構からは了解した旨回答があった。

6. 配付資料

なし

以上